



一人たすけたら 一人たすけが ある

お道(天理教)の教えは「かなの教え」と言われます。教祖はやさしい大和言葉で教えを示され、だれもが日常生活の中に教えを実行でき、世俗的な社会にあっても「里の仙人」になるように、と言われたと伝えられています。

平仮名は小さな子どもでも音読できる平易な文字ですが、その言葉の意味はとてむく深くなることがあります。

一例を挙げると、「たす(け)」と読む漢字は二十個以上あります。たった三音で、驚くほどたくさんさんの解釈に発展するのが、大和言葉の特徴です。

まず思いつく漢字は、「救け」「扶け」「助け」でしょう。

そのほかにも「佑け」「佐け」「人(にんべん)の右に居ても、左に居ても、「たすけ」にな

ります。人の隣に居ること(寄り添うこと)は、おたすけになると悟ることができます。「佑け」は人が有る、つまり人の存在もおたすけになります。現代では離れていても電話やメール、インターネットを利用して相手の顔を見ながら会話することだってできます。

「一人救けたら万人救かるという心持(こころもち)てくれ。」(おさしづ明治37年12月14日)

教祖の道具衆として、多くの人とつながり、ひながたを目標に、おたすけに努めさせていただきましたように。

本島大教会布教部(人)

※【たす(け)と読む漢字例】佑・祐・倅・弼・裨・

介・右・丞・助・扶・佐・佑・相・拯・毘・

翊・掖・救・補・援・掾・資・輔・贊・翼・

幫・讚



天理教本島大教会

教祖140年祭